



地に平和あれ

Toward peace on earth

クリスチャン・サイエンス・モニターより転載 4.12.2010

Fujiko Signs / サインズ・フジ子

この冬休み、私は家族と東京から広島へ旅をしました。広島は第二次世界大戦のとき原爆が初めて落とされた都市であることから、平和運動をする場所とされています。着いたのは午後の3時で、路面電車の停留所から象徴的な建物、平和を訴え続けてきている原爆ドームと広島平和公園がみえました。空気は張っていて、つめたいけれど、雲一つない青空からさんさんと照る太陽の光はとても強烈でした。私たちは急いで、広島平和記念資料館へ向かいました。

館内の展示物一つ一つが、広島の方々の感じた恐怖と悲しみを伝えようとしているなか、一番最後にあった、何もない地面から緑の葉が生えている写真の展示は、希望のメッセージを私たちの心に訴えるものでした。写真の説明には、原爆の落ちたその地には、この先75年植物は生えないであろうと言われていたにもかかわらず、1945年原爆が投下されたその年の秋、廃墟のなかから葉が芽生え、花が咲いたと書いてありました。その光景は奇跡にみえたことでしょう。その植物の生えている姿がどんなにか、人々に希望と確信をあたえたことでしょう。その普通だったら見過ごしてしまうような光景は、神である神性の生命の印、つまり生命が破壊や死よりも、もっと強いものだという印に思えたことでしょう。

今現在、世界で幾つかの紛争が有り、朝鮮半島が国境を境に争い、他の国が和解を求めているとき、平和の価値を重んじ一日一日を平和に生きる事は大事なことです。平和は、単に、戦争や大惨事が無い状態ではなく、また、平和になったり、壊れたりするものでもなく、私たちが、神の子であること、またイエス・キリストが私たちのただ中にあると説いた神の国の霊的実在の一端なのです（ルカ 17:21 参照）。

この平安は永遠で、ダイナミックで善なのです。この平安を生きることを妨げるのは、私たち自身そして他の人達に対するあやまった見方です。私たちの様々な経験は、時には他の人々が私たちから善いことを取り上げてしまうのではないかと恐れ、存在を限られた滅

他の日本語記事については、次をご覧ください: <http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2009 The Christian Science Publishing Society (CSPS). この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事メール (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事の他の出版物に転載する許可を得るには、copyright@cspcs.com 宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

びゆくものであると説得しようとする。その考えが極端な域に達すると、ある国が他の国を奪おうとしたり、敵が攻撃したりしてくるのではないかという恐れにかられ、戦争に及ぶこともあります。現実には私たち一人一人が霊的で、神の供給によって満たされています。誰も神が私たちに与えている善を奪うことができないのです。

メリー・ベーカー・エディは、どのようにして平和を確立できるかということについて何度か書き記しています。キリスト教科学の教科書『科学と健康—付聖書の鍵』にこの霊的思考方を提示しています：「すべての人が、一つの心、一つの神と父、一つの生命・真理・愛を持っていることを、わたしたちは徹底的に理解すべきである。この事実が判然とするに比例して、人類は完全になり、戦争はやみ、人の真の兄弟関係が確立されるであろう」(p. 467)。

広島平和公園の敷地内を歩きながら、私がここへ来る事など知らなかった親友が、私の携帯電話 iPhone に送ってくれたキリスト教科学の賛美歌の 44 番の歌詞 (フェリシア・D・ヘマンズ) の朗読を聴いていました。それは、こんな歌詞で始まります。

「平和の地へいらっしゃい；陰から出てこちらへいらっしゃい；泣き声はすべて止み、嵐も揺るがすことができないところへ」

「ここに恐れは宿らない；しかし純粋な休息と愛が明るい天上の空気に息づいている。
平和のシンボル—鳩の精神」

この希望あるメッセージは私たちのものです。日々この平安が私たちの神性の権利であると主張し、私たちが神から授かっている善が見えないように脅そうとする陰から逃してくるのです。私たちの祈りは世界を包含し、この平安が、誰一人として取り残されることがなく、私たちの生活にさらなる恵みをもたらしてくれるよう願うことを可能にしてくれるのです。

そして、聖書にある次の言葉を確信をもって唱えることができるでしょう。「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」(ルカ 2:14)。この言葉の持つ精神を日々、私たちの思いの中心に置くことが、総ての人に平和をもたらす第一歩になるのではないのでしょうか。

Author's Name / サインズ富二子